

第6回高知地方会 活動報告

「医師事務作業補助者（臨床支援士）の今後の展望と課題」

開催：平成30年12月8日（土） 14:00～17:00

会場：高知新聞会館 高新文化ホール

平成30年12月8日（土）高新文化ホールにおいて第6回高知地方会を開催いたしました。多くの方々に参加していただき、盛会に終わりました。

基調講演

「医師事務作業補助者の展望と課題」

NPO 法人 日本医師事務作業補助研究会 矢口智子理事長



矢口理事長から「医師事務作業補助者の展望と課題」と題し、ご講演いただきました。

医師事務作業補助者に求められる役割の変遷について、当初は事務作業を行うことにより『勤務医の負担軽減』となることが求められていたが、医師事務作業補助者が成長し、病院に定着することによって、医師と患者・他職種との架け橋になるなど、『チーム医療の推進』にも

期待されるようになった。現在、医師のタスクシフティングを考える上で、最も期待されている職種が医師事務作業補助者である。

医師事務作業補助者へタスクシフティングをする上で、①医師の事務作業の負担軽減、②役割分担の推進、③医療の効率化、この3つの目的を再認識する必要があると述べられました。

また、今後の課題として、「職種の確立」「キャリアパス形成」「資格化」「臨床支援士への名称統一」などがあげられ、医師事務作業補助者として進む道を再認識できました。

講演①

「キャリアパスモデルを活用した人材育成」

NPO 法人 日本医師事務作業補助研究会 南木由美副理事長

代理) 北海道支部 渋谷由美子支部長

南木副理事長が交通機関トラブルの為欠席となり、代理として北海道支部 渋谷由美子支部長に

「キャリアパスモデルを活用した人材育成」についてご講演いただきました。



教育や指導に関して OJT や上司の我流などバラツキが生じやすいといった現状がある。

そのため経験年数に応じたスキルを明確にする必要があり、キャリアの方向性の明確化、スキルアップの可視化を図るためのキャリアパスモデルを構築、また構築までの活動内容や各病院のキャリアパス実例紹介等をしていただきました。

人材育成を行う上で、適正にあわせた人員配置、教育体制の充実、リーダーの存在・育成、コミュニケーション、権限の委譲と明確化、人員確保が必要であると述べられました。

講演②

「医師事務作業補助者の活用と人材育成」

NPO 法人 日本医師事務作業補助研究会 武田まゆみ理事
武田理事より「医師事務作業補助者の活用と人材育成」と題しご講演いただきました。

意識改革×業務改善×教育、業務の見直し×新たな役割と、仕事を掛け算にすることにより生産性



を向上し、お互いの能力が高まる事を新人教育の事例を用いて説明していただきました。

また自院の人事考課制度での職能要件書の整備では、仕事（課業）の把握、資格等級に対応するか、レベルが病院全体として妥当であるか等、細やかな見直しを行った事や雇用形態に応じた評価、人事考課制度を含めた人材教育の重要性についてお話をいただきました。

支部活動報告

下記 3 支部の支部長より、支部活動の取り組みについて報告していただきました。

- ・高知県支部 門田美紀支部長
- ・愛知・岐阜支部 小島敏美支部長
- ・北海道支部 渋谷由美子支部長

地方会を終えて

今回は、医師事務作業補助者の使命・役割に特化した内容や、医師事務作業補助者としての責務、またキャリアパスを用いた育成方法や病院内での職種確立などとても有意義な地方会でした。医師事務作業補助はこれからますます重要であり、職業人口増、さらなる発展性のある職種であると実感しました。

また、臨床支援士とし有資格化に向けて個々の士気も高まりました。

今後とも医師事務作業補助者の発展につながるよう活動を行っていきたく思います。

最後になりますが、地方会にご参加いただきました皆さま、開催にご協力頂きました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

なお今回、公益信託 高知新聞・高知放送「生命(いのち)の基金」を一部受け、地方会を開催いたしました。以上、活動報告とさせていただきます。



報告者：高知県支部 世話人（代理） 戸梶 桃子